慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1955
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.48, No.4 (1955. 4)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19550401--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌

慶應義塾經濟學會

四月號

マルクスとスターリン……氣賀健三（一）

經濟學の保險論……庭田範秋（二〇）

——古典學派およびマルクス主義經濟學の保險觀——

資料

日本電氣通信産業の構造(一)……伊東岱吉（三七）

尾城太郎丸

——有線通信機器工業實態調査報告——

書評及び紹介

經濟學關係文献目錄

第四十八卷　第四號

昭和三十年四月一日發行（毎月一日發行）
昭和二十六年二月十三日國鐵特別扱承認雜誌第一、九〇三號
昭和二十五年十月二十四日第三種郵便物認可

昭和二十五年十月二十四日第三種郵便物認可
昭和二十六年二月十三日國鐵特別扱承認雜誌第一、九〇三號
昭和三十年三月一日發行（毎月一日發行）

三田學會雜誌　昭和三十年三月號

定價　金七〇圓（八送料）

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 48, No. 3　March, 1955

CONTENTS

Page

On "Steuerpolitik im Wohlfahrtsaat" by Prof. U. K. Hicks.....*J. Takagi* (1)

The Character of Estimates and the Tolerance Interval.....*T. Sato* (14)

A Study of the Economic Thought of Thomas Hobbes—Introduction to the study of the Natural Law and British Mercantilism .....*Y. Umetani* (34)

Material

Social Democracy and Fascist Movement in Italy.....*K. Iida* (53)

Review and Note

Published for

KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI

(The Keio Economic Society)

Editorial communications to be sent to the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai, Keio-Gijiku University, Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.

Price 70 yen net

書評及び紹介

エルンスト・ケルター『黑死病期の十四・五世紀ドイツにおける經濟生活』……渡邊國廣（六一）
『アメリカ自由放任（レセ・フェア）主義の發展』……中村勝己（六六）
ジョルジニ・コニオ『新經濟學教科書に寄せて』……平野絢子（七一）

マルクスとスターリン

氣賀健三

一

ソヴェート連邦の歷史はそのままマルクスの遺言を實行していることになつており、レーニンとスターリンによつて指導されてきた共產黨政府はその遺言執行人であるとみてよいであろう。もつともマルクスはロシアにおいて最初に社會主義革命が成功するとは夢にも考えていなかつたし、また後になつてレーニンが補足したような帝國主義の段階なるものさえ豫知しなかつた。帝國主義の段階が來ることを豫測することもできなかつたし、また資本論におけるその崩潰する運命の豫告より一〇〇年餘を經過した今日に至るまでイギリスが資本主義的命脈を維持していることについては、マルクスの理論的判斷が輕率に過ぎたのかあるいは、革命家的焦慮に誤まられたのか、とにかく或る種の缺陷があつたとみなければなるまい。しかしながら、このような豫測上の誤りは別として、世界の歷史の新しい段階においても依然としてマルクス理論の眞理性は失われることなく、その天才的な後繼者によつて受繼がれかつ發展させられたとみるのが今日の左翼理論家の通念であろう。

マルクスとスターリン